

1. 「設置前」の注意：ルート設計や施工方法

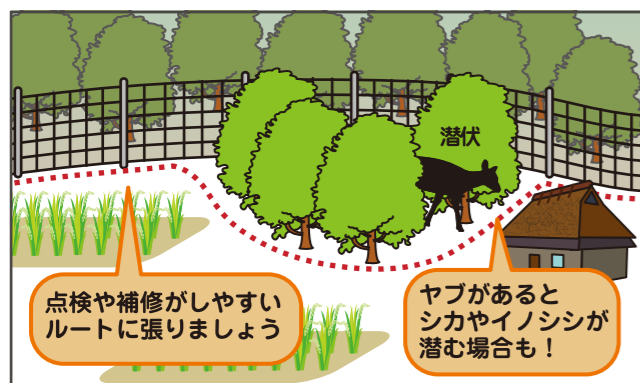
シカ・イノシシの侵入原因をよく理解したうえで

- ① 設置後に定期点検を行いやすいように、
- ② 侵入されやすい箇所をつくらないように、設置ルートや施工方法を検討することが重要です。



設置後、管理しやすいように考えましょう

ポイント できるだけ山すそに設置



設置後の定期点検のため、歩きやすいルートに柵を張ることが重要です。また、柵の集落側に林やヤブが残っていると、動物が潜んでしまう場合も多くあります。柵の点検も大変になりますので、注意しましょう。

ポイント 山では管理道を確保



やむを得ず、山の中に柵を通すときは、定期点検のための管理道を作るようにしましょう。倒木対策のために、周囲の木を伐採している集落もあります。

侵入されやすい箇所をつくらないように

ポイント 傾斜地では注意



傾斜地に設置すると、シカに飛び越えられやすい高さになってしまう場合があります。できるだけ平坦なところに、柵を設置しましょう。

ポイント 隙間を残さない



「このぐらいなら大丈夫」と油断せずに、隙間なく設置しましょう。とくに柵の切れ目や門扉の下などは注意が必要です。

2. 「設置後」の注意：定期点検・補修が不可欠

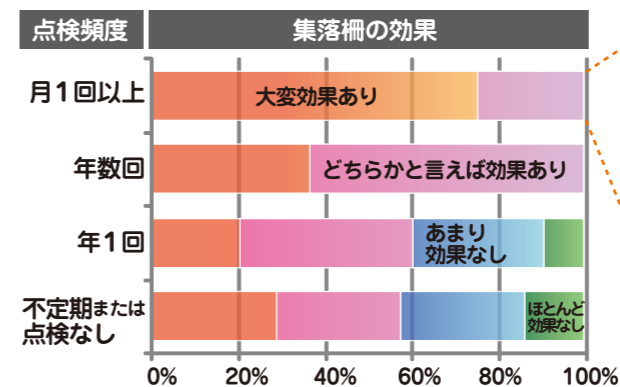
防護柵は野外で長期間放置されるため、必ず野生動物の侵入経路ができてしまいます。設置した後は、集落で定期点検を継続的に実施する体制づくりが必要です。

点検・補修をしっかりとっている集落では効果大！

点検体制

集落でよく話し合い、継続できる体制づくりを目指しましょう。

集落柵の点検頻度と効果の関係
(H21 防護柵総点検結果より)



「効果あり」集落での点検体制の例

- A集落・農会役員で月1回の点検
・農会全員で年1回の総点検、ヤブの刈り払い
- B集落・受益者全員で2週間に1回の点検(当番制)
- C集落・集落総出(非農家も含めた)月1回の点検

補修の事例



簡易な補修道具と資材を携帯して点検に行きます。隙間を見つけた場合はすぐに対応し、必要であれば、後で強固な資材でしっかり補強します。



間伐材を踏切場所や着地点におくと、侵入防止効果が高くなります。



シカが飛び込みやすい斜面の金網柵は、のり網や針金でかさ上げをして補強します。



柵に番号を付けて、補修が必要な箇所を連絡しやすくしましょう。